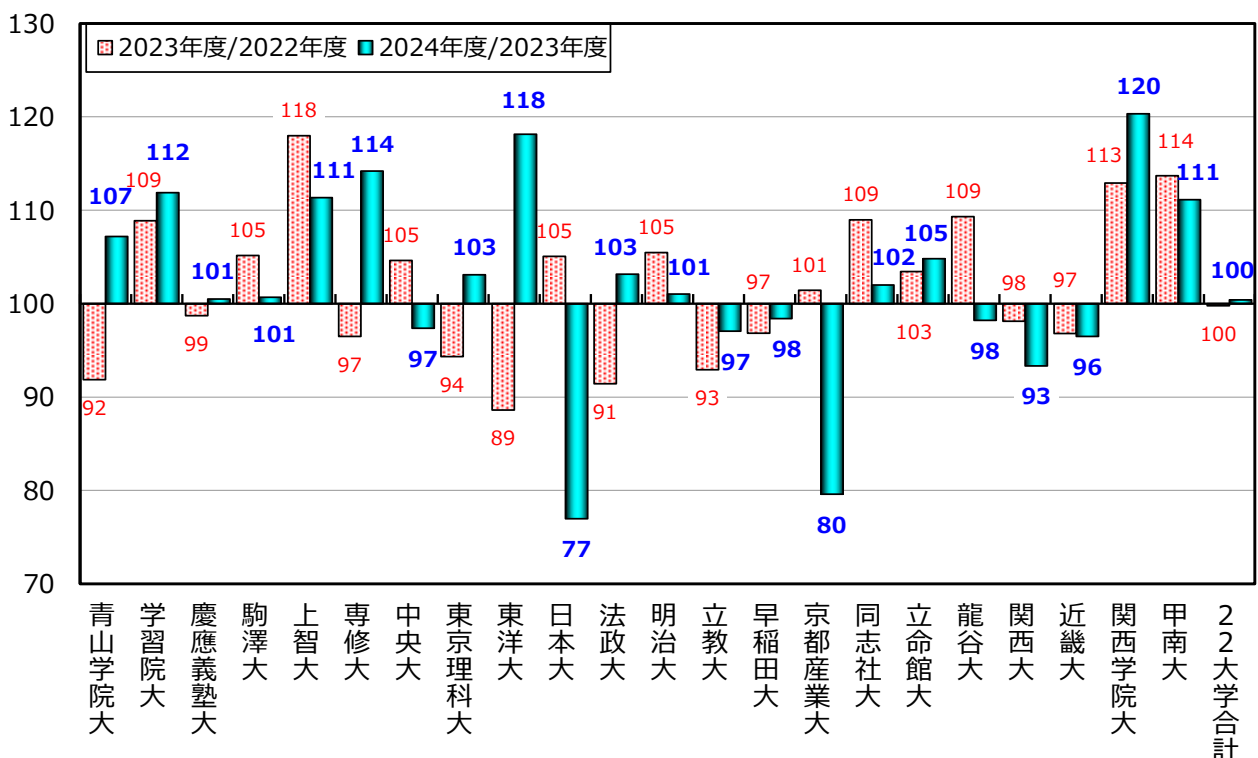


※本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎主要私立22大学 志願状況概況

大学	2024年度			2023年度(最終)			志願者指数 (2024年度/2023年度)		
	一般方式	共通テスト 利用方式	合計	一般方式	共通テスト 利用方式	合計	一般方式	共通テスト 利用方式	合計
青山学院大	25,068	22,041	47,109	21,850	22,098	43,948	115	100	107
学習院大	16,183	4,062	20,245	14,637	3,457	18,094	111	118	112
慶應義塾大	37,600		37,600	37,411		37,411	101		101
駒澤大	19,715	11,178	30,893	19,507	11,177	30,684	101	100	101
上智大	4,966	24,603	29,569	4,915	21,637	26,552	101	114	111
専修大	33,574	17,715	51,289	28,929	15,989	44,918	116	111	114
中央大	44,708	21,285	65,993	47,577	20,209	67,786	94	105	97
東京理科大	35,073	17,188	52,261	34,547	16,151	50,698	102	106	103
東洋大	58,064	44,831	102,895	51,069	36,025	87,094	114	124	118
日本大	59,828	16,011	75,839	74,126	24,380	98,506	81	66	77
法政大	70,667	31,502	102,169	68,962	30,089	99,051	102	105	103
明治大	80,589	28,570	109,159	80,258	27,784	108,042	100	103	101
立教大	34,224	22,271	56,495	34,642	23,566	58,208	99	95	97
早稲田大	72,815	16,605	89,420	74,545	16,334	90,879	98	102	98
京都産業大	21,463	9,007	30,470	25,176	13,099	38,275	85	69	80
同志社大	40,731	10,243	50,974	40,157	9,815	49,972	101	104	102
立命館大	59,412	36,367	95,779	58,187	33,195	91,382	102	110	105
龍谷大	39,661	20,333	59,994	41,469	19,614	61,083	96	104	98
関西大	51,963	20,566	72,529	55,237	22,462	77,699	94	92	93
近畿大	107,977	38,850	146,827	112,860	39,331	152,191	96	99	96
関西学院大	33,197	19,427	52,624	28,723	15,014	43,737	116	129	120
甲南大	13,506	5,014	18,520	11,843	4,824	16,667	114	104	111
22大学合計	960,984	437,669	1,398,653	966,627	426,250	1,392,877	99	103	100

※4/12現在確定値



上のグラフと表は、2024年度入試における主要私立22大学の4月12日時点での各大学発表による志願者数の確定値を集計したものです。なお、2023年度の志願者数についても、前年度最終集計から一部の大学が修正を行いましたので、

それを反映させた数値です。

□ 志願者数が増加したのは 14 大学で、減少 8 大学を上回る

主要22大学中で、前年度より増加したのは14大学で全体の6割余りでした。成績上位層の難関大志望の高まり、次年度の新課程入試を控えて国公立大併願者を含めて併願校数を増やしたこと、コロナ禍の収束に伴い、地方から都市部の私立大への志願者数の回復したことなどから全体的に増加傾向が強く表れました。減少した8大学を見ても、5%以上減少した大学は3大学のみでした。

大学別に見ていくことにします。関西学院大(120)、東洋大(118)はいずれも大幅増加、専修大(114)、学習院大(112)、上智大(111)、甲南大(111)はいずれも増加、青山学院大(107)、立命館大(105)、法政大(103)、東京理科大(103)はいずれもやや増加でした。

一方で、日本大(77)、京都産業大(80)はいずれも大幅減少、関西大(93)は減少、近畿大(96)、立教大(97)、中央大(97)はやや減少でした。

増加した大学では、関西学院大(120)は、<一般><共テ併用>の出願締切日を共通テスト実施日の翌月曜日から翌水曜日に出願締切日を延長、一部方式への併願減額制度の新規導入により大幅増加で4年連続増加しました。東洋大(118)は、生命科学の学部改組とそれに合わせて(生体医工)は川越キャンパス(埼玉県川越市)から、(生命科学)、(生物資源)は板倉キャンパス(群馬県邑楽郡板倉町)からそれぞれ朝霞キャンパス(埼玉県朝霞市)へ移転、食環境科学も学科改組とそれに合わせて板倉キャンパスから朝霞キャンパスへ移転という都心に近いキャンパス移転効果が見られました。さらに各学部での入試方式の変更や入試日の増設などで大幅増加、志願者数は4年ぶりに10万人を上回り、全国4位の志願者数となりました。

一方で、減少した大学では、日本大(77)は、大学を取り巻く厳しい環境から大幅減少。京都産業大(80)は、近隣の立命館大や龍谷大が交通の利便の良いキャンパスへの移転等を行っている中でキャンパスのロケーションから近年は減少傾向が見られた中で大幅減少でした。

主要22大学で志願者数が10万人を上回ったのは、近畿大、明治大、東洋大、法政大の4大学で、前年度より2大学増加。近畿大(96)はやや減少でしたが、11年連続志願者数全国最多の見込みとなっています。

方式別では、共通テスト利用方式(103)のやや増加に対して、一般方式(99)は前年度並となりました。共通テスト利用方式はやや増加ですが、大学別では関西学院大(129)、東洋大(124)、学習院大(118)の大幅増加が目立ち、共通テスト利用方式を実施していない慶應義塾大を除く21大学中15大学で増加しました。共通テスト利用方式に新方式を導入した大学があったことに加えて、難関大では国公立大との併願者も多く、この層が受験料や試験対策の負担が軽い共通テスト利用方式を積極的に利用したことも要因です。